



「2021年度営業関係施策(その1)」について提案を受ける!!

6月8日、地本は会社より「2021年度営業関係施策(その1)」について提案を受けました。会社は「変革2027」「駅の変革」のスピードアップの実現に向け、環境変化を踏まえた販売体制へシフトするために、販売体制見直しを行うとしています。敢えてみどりの窓口を選ぶお客さまも多く、利便性が逆に低下することを懸念しています。単に効率化だけを目的とした施策の実施では、赤字の今、最も大切な「お客さま視点」が抜け落ちてしまいます。

また、尾久駅においては信号の電子連動化や駅機能の集約に伴い輸送体制の見直しを行うとしています。尾久駅は広大な車両センターを抱えており、上野東京ラインの輸送の要です。異常時に的確に対応できる体制と安全で働きやすい職場環境が無ければ、構内業務などの特殊な技術継承は行えません。

<p>神田駅</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売体制(出札閉鎖)、内勤体制、管理体制(営業助役)の見直し 8徹3変→7徹 標準数:40名→30名 実施日:2021年11月1日 	<p><会社の主張></p> <p>両駅とも一日の発券枚数は700枚程度。券売機では1,500枚程度(2019年度)。窓口の発券はほとんどが券売機で買えるものである。今後、全てのお客さまが窓口での購入に戻ってくるわけではない。券売機・チケットレスへ移行していく。</p>
<p>大森駅</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売体制(出札閉鎖)、内勤体制、管理体制(営業助役)の見直し 3徹3変→3徹 標準数:22名→15名 実施日:2021年11月1日 	<p>10数%は窓口でしか買えないもの(学割やジパング倶楽部などの割引証が必要な乗車券類やレール&レンタカー)があるが、大森や神田では決して多いわけではない。</p>
<p>浜松町駅</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売体制(営業時間変更)の見直し 出札1徹3変→出札1徹2変 標準数:33名→31名 実施日:2021年11月1日 	<p><会社の主張></p> <p>3/13のダイヤ改正で窓口の時間を9:00~19:00に短縮していた。今回、体制・作業ダイヤも変更をする。現行で問題は発生していない。</p>
<p>尾久駅</p> <ul style="list-style-type: none"> 輸送体制の見直し 標準数:45名→37名 実施日:2021年11月23日 	<p><確認したこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 安全作業を行うにあたり基本的な考え方は変わらない ② 今後も田端運転所などと連携をして作業をおこなうことがあるが考え方は変わらない。

提案にあたり、地本の考えを述べる!

・駅は黒字化を目指して努力している! ワクチンなど条件が整えば多くのお客さまは旅行をするために窓口を利用されることが予想される。閉鎖するべきではないし、社員との考えとは乖離している!

・窓口閉鎖した駅ではトラブルは起きていないと会社は主張するが、私たちは声をいただいている。会社はしっかりと把握し、具体的な対策・対応を講じるべきだ!

また、業務委託箇所における見直し内容について説明を受けました。

大塚駅 ・販売体制(出札閉鎖)の見直し
御徒町駅 ・実施日:2021年11月1日

赤字の今こそ「お客さま視点」を大切にすべきだ!

安全・安心な輸送サービスを提供できる体制を堅持するために地本は現場で働く仲間とともに団体交渉に臨みます!